

福生市立福生第一小学校「平成23年度授業改善推進プラン」

【福生市教育委員会教育目標】

福生市教育委員会は、子供たちが、知性・感性・道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、人権尊重の精神を基調として、思いやりと規範意識のある人間、公共の精神を尊び、社会・地域の一員として貢献しようとする人間、個性と創造力豊かな人間、伝統と文化を尊重し、郷土を愛するとともに国際社会の信頼と尊敬を得る人間を育成する教育を推進する。

また、生涯学習を振興し、市民のだれもがあらゆる機会、あらゆる場所で学び続けることのできる社会の実現を図る。

教育は、学校・家庭・地域の三者が互いに手を携えて責任を果たしてこそ、その成果があるものとの認識に立って、全ての市民が参加する教育を目指す。

【福生第一小学校の教育目標】

- 心豊かな子ども
- 考えを深める子ども
- 進んで体をきたえる子ども
- 物事をやりとげる子ども

1 地域の実態

- ・地域の行事が盛んで、連帯感がある。
- ・駅前商業地域を含み、福生市の中心地である。
- ・外国人が多く、国際色が豊かである。

2 地域・保護者の期待や願い

- ・よりよい学校への期待・願いは強い。
- ・豊かな人間性をはぐくむことへの期待が強い。

3 期待される児童像

- ・主体的に学び、生き生きとした心豊かな子供
- ・生きる力を身に付けた子供

《本校の現状》東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果（平成23年度）

観点別では関心・意欲・態度は国語(**. *pt)、技能では算数(**. *pt)、知識・理解では理科(**. *pt)が最も高い。

【国語】言語に関する知識・理解が低い(**. *pt)。「平等」が読めなかったり、「暑い」を「熱い」と書き違えたりする児童が目立った。取り出す力は高い(**. *pt)が、解決する力が低い(**. *pt)。

【社会】知識・理解が低い(**. *pt)ため、題意を正確にくみ取れない児童が多く、また、解決に時間を要す。また、取り出す力が低く(**. *pt)、どの資料を利用してよいか判らない児童が多い。

【算数】技能が高いが、思考・判断・表現は低い(**. *pt)。計算はできるが説明や理由付けは難しいと感じている児童が多い。また、解決する力が低い(**. *pt)。発展的な問題や新しい単元でのつまずきが多いものと推測される。

【理科】知識・理解が4科中最も高く(**. *pt)、意欲的に学習している姿も目立つ。読み解く力に関する内容が、どの観点においても比較的高く、解決する力が4科中最も高い(**. *pt)。

【学習への取り組み】授業が「楽しい」「少し楽しい」児童の割合は**ptに、授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」児童の割合は**ptに達している。国語や社会では分かる理由が分散しているのに対し、算数では①少人数の学習がある(**pt)、②いろいろな解き方がある(**pt)という理由に、理科では①観察や実験がある(**pt)、②観察・実験のまとめがある(**pt)、③予想を確かめられる(**pt)という理由に、支持が高い。

主体的に学ぼうとする態度は身に付いているが、知識・技能の習得、並びに、思考・判断・表現する力に課題がある。

全校一丸となって学力向上を目指してきた結果、集中した朝学習(週3回、10分間、国算読)で1日をスタートし、時間を守り、けじめを付けて授業に臨めるようになった。家庭でも一定時間学習する習慣が定着した児童が増え、90%以上の児童が家庭学習に取り組んでいる。また、音読や四行日記などの継続した取り組みが効果を上げている。

《本年度本校における学力向上のための重点方針》

- 二中学区の共通目標「しっかり話を聞こう～相手の目を見て、口を閉じて、考えながら」の徹底に取り組む。
- 朝学習の一層の充実を目指すと共に、基礎・基本の定着・習熟を図る。
- 算数科において、習熟度別少人数学習集団による問題解決型学習の工夫を推進し、個に応じた指導の充実を図る。
- 読書指導を充実させる。読書週間を設定し読み取る力を養う。
- 校内研究は国語を中心とし、「読むこと」に主眼を置いた指導法の研究を推進する。

《各学年における学力向上の具体策》

第1学年

- 基礎学力をつけるために読み、書き、計算をくり返し指導する。
- 自分の考えを発表する場面を増やす。

第2学年

- 基礎・基本を身に付けるために、漢字・音読・計算をくり返し指導する。
- スピーチの機会を多く設ける。

第3学年

- 日記や短作文に取り組みせ、書く活動を増やす。
- 身近に辞書を置き、引く機会を多く設ける。
- 四則演算の定着を図る。

第4学年

- 話形「なぜか」とを定着させ、理由や思考過程を考える習慣を付ける。
- 身近に辞書を置き、引く機会を多く設ける。
- 四則演算の定着を図る。

第5学年

- 辞書を活用させて、語彙を増やす。
- 自分の考えなどを文でまとめて書く機会を多く設ける。
- 四則演算の定着を徹底する。

第6学年

- 辞書を使用し語句を調べる機会を増やす。
- 学んで身に付けたことを学習や生活にいかすことができるよう指導の工夫をする。
- 四則演算の定着を徹底する。

《学力向上の成果の検証及びその評価方法》

- 「授業改善プラン」に基づく指導方法を校内研究などで評価し、必要に応じて修正する。
- 指導と評価が一体化するような指導を実践し、児童の変容をもとに少人数による指導の工夫・改善を図り、「個に応じた指導体制」を一層充実させる。
- 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果などを分析し課題を明らかにし、授業改善推進プランに反映させる。
- 本年度の結果だけでなく過去の調査の結果を踏まえ、より正確に児童の達成率を分析し、授業の改善に生かす。